

事業名: 中国における病診連携促進のための研修事業

実施主体: 国立国際医療研究センター国際診療部

対象国: 中国

対象医療技術等: ①B型肝炎の治療、食道がんにおける周術期栄養(日本製品の紹介)、嚥下障害に対する取り組み(日本製品の紹介) ③B型肝炎の政策

事業の背景

SDGsのTarget 3.4に関連する指標、30歳から70歳の間で、心血管系疾患・がん・糖尿病・慢性呼吸器疾患の非感染症疾患(NCD)による死亡率は、2019年時点で、中国は15.9%、日本は8.3%である(World Health Statistics 2021)。NCDのうち、主のがんや糖尿病など、現在の生活習慣に関わる疾患に対する日本の医療技術や医療ケアを、今年度は当センターがMOUを結んでいる清華大学、北京大学および関連医療機関の医療従事者に対して紹介をするためのセミナーをオンラインで開催する。

事業の目的

NCGMが中国の医療機関を対象に、NCDに関するセミナーを開催し、日本の医療技術、医療ケアを紹介することで、中国の医療機関内での情報交換を活発にし、病診連携を促進する。

1

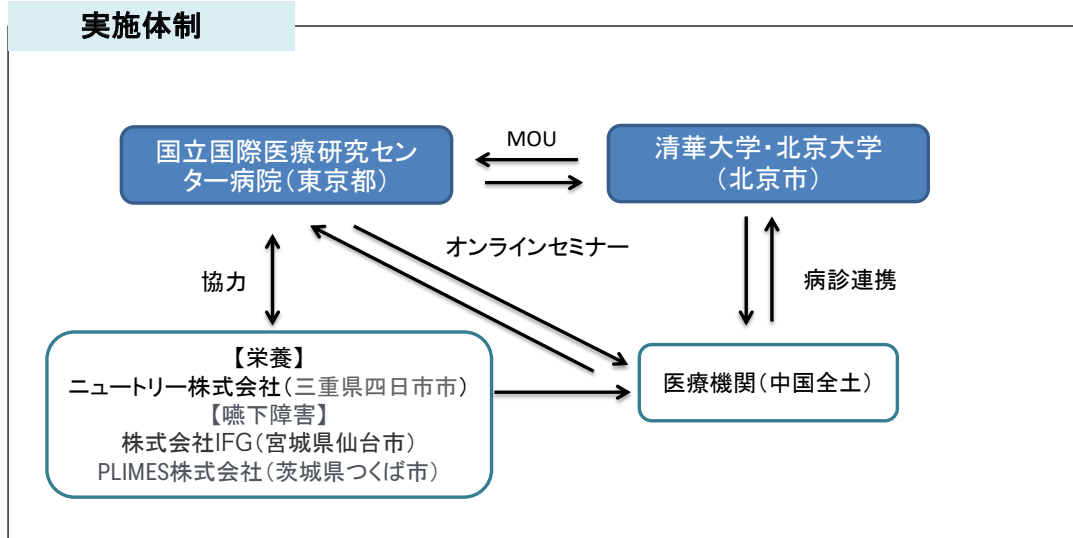
今年度は、4回のオンラインセミナーを国立国際医療研究センターを拠点に実施しました。

1回目は、中国で多いB型肝炎に対して、「日本のB型肝炎に対する政策と医療」を、NCGM 肝炎・免疫研究センター長の考藤達哉先生に、2回目は、「食道癌における周術期栄養管理の実際」を、当院消化器外科診療部門長田山田和彦先生に、3回目は「患者の健康、医療の安全と質の向上を目指した国際的な医療連携の提案」を当院国際診療部の日野原千速先生に、4回目は、「日本の嚥下障害に対する取り組み」～高齢者向け総合医療・看護支援の立場から～を、当院リハビリテーション科診療科長藤谷順子先生に講義をして頂きました。その後中国側の専門家との質疑応答・ディスカッションを行いました。詳細は、以下のサイトからご覧いただけます。研修・事業等 | 国立国際医療研究センター病院 (ncgm.go.jp) また、今年度は、栄養と嚥下紹介に関する日本の製品を中国側に紹介をしました(写真参照)。

33 中国における病診連携促進のための研修事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

実施体制



研修目標

日本のB型肝炎、がん治療の週術期栄養、嚥下障害の予防・治療・医療ケアの紹介を行う。中国側の各医療機関の専門家との意見交換、質疑応答を行う。その過程で日本と中国の違いからお互いが学び、各医療機関の病診連携に繋がる。また、セミナー内容に関連した日本の製品を紹介する。

2

1年間の事業内容

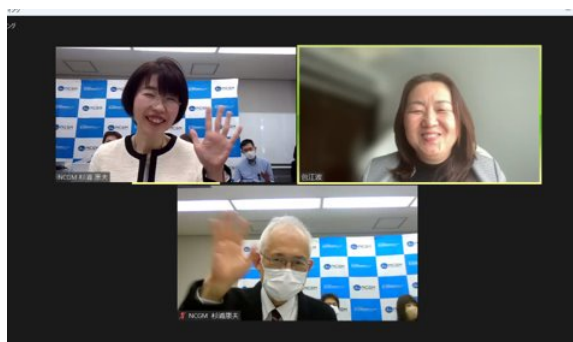
令和4年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
研修内容 (日本人専門家派遣、本邦研修、現地研修、遠隔システムを用いた研修の期間・参加者数など)	A. オンラインセミナー研修準備 研修資料作成 資料のWeb上掲載				A. 研修資料のWeb上掲載 https://www.hosp.ncgm.go.jp/icc/020/index.html				A. オンラインセミナー研修準備 研修資料作成 資料のWeb上掲載	
		↓ 6/12肝炎セミナー							↓ 2/6病診連携セミナー	↓ 2/17嚥下障害セミナー
		↓ 6/29栄養セミナー 日本人専門家 延べ4名 現地講師・専門家 延べ4名 研修員 10,245名							日本人専門家 延べ2名 現地講師・専門家 延べ4名 研修員 7,824名	

33 中国における病診連携促進のための研修事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)



嚥下を測るデバイス GOKURI(PLIMES株式会社)



中国側とオンラインで講義と製品の情報共有



磁気刺激装置
パスリーダー (株式会社IFG)⁴



今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画(具体的な数値を記載)	A. 資料のWeb上掲載 B. 1)オンライン研修: 4回、2)セミナー研修参加者: 1回250名 4回で計1,000名 C. 1)現地セミナー研修: 1回、2)セミナー研修参加者 200名	B. C. 1)NCDに関する病診連携が関わる症例検討会の回数4 2)NCDのセミナーによって紹介された内容(技術やケア)が使われた件数: 4	NCDのセミナーによって紹介された内容・技術が5年以内に中国国内で広がった医療機関数: セミナー開始時より5倍
実施後の結果(具体的な数値を記載)	A. 資料のWeb上掲載: 3 B. 1)開催オンライン研修: 4回(6/12, 6/29, 2/6, 2/17)、2)セミナー研修参加者: 肝炎(6/12) 8,645名 栄養(6/29) 1,600名、中国病院200診療科が参加、病診連携(2/6) 635名、嚥下障害(2/17) 7,813名	1)症例検討会回数: 0回 2)紹介された技術やケア 3件①栄養1件 ・粘度調整食品「要順」(ニュートリー(株)) ②嚥下障害2件(紹介のみ)・嚥下を測るデバイス GOKURI(PLIMES(株)) ・磁気刺激装置パスリーダー((株)IFG):	粘度調整食品「要順」は、77病院から134病院へ約1.74倍増加した。

5

今年度の成果指標は、アウトプット指標として、各セミナーでは毎回、中国側で多くの参加者を得ることができました。アウトカム指標として、病診連携に関わる症例検討会は開催されませんでした。セミナーに関連する日本製品を紹介することができました。インパクト指標は、紹介した日本の製品が中国国内でどれほど利用機関が増えるかを設定しました。

33 中国における病診連携促進のための研修事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

今年度の対象国への事業インパクト

医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介し、対象国の販売強化につながった粘度調整食品「要順」(ニュートリー株式会社:2021年12月から販売開始)

2022年6月末時点、77病院、販売数量:425袋/月

セミナー実施(6/29)後3カ月、9月19日時点、77病院の販売数量:493袋/月

セミナー実施後、新規57病院が製品導入(117袋/月)

77病院+新規57病院=134病院、月間数量667袋



健康向上における事業インパクト

- 事業でセミナー受講者数(延べ数:18,693名)
- 日本で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数(49名)
- 対象国で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数(18644名)
- 研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数(18,693名)
- 導入した製品(要順)は、134病院で利用されている。

6

今回、オンラインセミナーで紹介された、粘度調整食品「要順」(ニュートリー株式会社)は、既に2021年12月から中国内で販売開始していたが、セミナーを実施した3カ月後には、販売数も、新たに製品導入を行った病院数も増加したことがわかりました。

33 中国における病診連携促進のための研修事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター (NCGM)

これまでの成果

研修(オンラインセミナー)を聴講した研修員の合計数

令和3年度の成果

1回目DM:770名、2回目DM:223名、3回目HIV/AIDS:10,500名、計:11,493名

令和4年度の成果

1回目(肝炎)(6/12)8,645名、栄養(6/29)1,600名、中国病院200診療科が参加、病診連携(2/6)635名、嚥下障害(2/17)7,813名

以上より、中国とのオンラインセミナーを行うことで、非常に多くの聴講生を得ることができた。今年度は、特に、日本の製品紹介を加えることで、大きな注目を得ることができた。

今後の課題

中国での病診連携の進展は、医療技術のセミナー開催のみでは、把握することは困難であった。一方で、セミナーで日本の製品を紹介することで、より幅広い情報発信が可能になった。今後は、それらの製品が中国内で利用拡大することも視野に入れた病診連携を再考できると思われた。

7

この2年間で、中国とのオンラインセミナーを7回実施したことで、毎回、数百名から数千名以上の聴講者数になることが分かりました。この方法を用いることで、医療機関や一般市民に対して、日本の医療技術等、多くの情報を提供できることが分かりました。しかしながら、オンラインのみでは、病診連携を具体的に把握することは困難でした。一方で、今年度は、セミナーの中で関連する日本製品を紹介したことで、病診連携の中に医療技術のみならず日本の製品が注目されました。中国国内で、今後日本の製品が利用できるものは多いと想定されます。よって、NCDの中でも、疾患に対する治療等の病診連携のみならず、疾患に関連する製品や高齢化に対応してサポートをする製品を通じて、日本の医療技術や医療サービスが中国にも良い影響を与えるものと考えます。